



古道を訪ねて⑮

箕面街道・ 豊中市春日町付近

箕面の人々が南山と呼んでいる千里丘陵を登りつめたところが、箕面市と豊中市の市境です。豊中市に入り、坂を下りきって「府道豊中亀岡線」を横切ると春日町です。春日町に入り50mほど進むと、箕面街道から西へ分かれる小道があり、道が三叉路になっています。



そこには正面に「右みの道を 左ざい所」と刻まれた道標があります。大坂方面から来た旅人に、左右に分かれる道を右に行くと箕面、左に行けば在所（人の住んでいる所）であることを案内しています。右の面には「施主 大坂 吉文字



屋利兵衛」の文字がありますが、建立年がありません。しかし「吉文字屋利兵衛」は、牧落地区の箕面街道と西国街道の交差点に、享保5（1720）年に道標を建てていますので、この道標も同じころの建立と推測されます。道標を過ぎると、およそ300mにわたって、街道の両脇に、白壁造りの民家や土蔵が建ち並びます。新興住宅地を歩いて来て、突然風景が変わるため、時代が逆行したかのよう感じられます。老朽化した民家が建ち並んでいるのではなく、古い民家は元の状態を損なわないように修理され、新しい民家も周辺の町並みと違和感のないように工夫されて建てられているため、全体が調和のとれた美しい歴史的な景観を造り出しています。町並みを見学しながら進

んで行くと右手に「報恩寺」の大きな本堂が見えてきます。山門をくぐり、中に入ると、「麻田藩主邸表玄関」と書かれた、説明板が建てられています。報恩寺の庫裡の玄関は、豊中市蛍池にあった「青木氏」の陣屋（約1万石の大名であったので城は築かなかった）から移築されたもので、大名の陣屋の表玄関の様式を伝える貴重な遺構として、豊中市の文化財指定を受けています。

